

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年8月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104310		
法人名	社会福祉法人広島常光福祉会		
事業所名	グループホーム げんき中山		
所在地	広島市東区中山新町3丁目18-6 (電話) 082-508-4188		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104310-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年8月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームげんき中山は「明るく、楽しく、健やかに」を目標に入居者の皆様が笑顔で毎日を過ごして頂ける様に日々取り組んでいます。個々の得意な事を活かし、書道・園芸・茶道等を日常生活の中に取り入れたり、壁画など共同制作したものを飾り季節感を感じてもらえる様にしている。またカラオケ・散歩・塗り絵等様々なレクを取り入れ、活動的に過ごしてもらえる様にしている。日々の体調変化にも気を付け、かかりつけ医とも連携を取りながら体調管理を行っている。地域とも交流のある施設をめざし、毎年夏祭りを開催したり地域行事にも参加している。定期的に家族カンファを開催しながら本人・家族の要望に応じたプランを実施する様に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

- ・出来るだけ利用者に関わる時間を増やすように努めており唄を歌ったりゲームをするなどの全で行うレクリエーション、「貼り絵」や「ぬり絵」等の個別レクリエーションを行っている。
- ・利用者の体調変化や気分が不安定な状況などが生じた際には、「ケース担当者」が中心となり、職員全体で対応策を相談して実施している。
- ・利用者が出来ること：食器洗い・洗たく物を畳む・菜園の水やり等を役割として活動している。
- ・「宇品花火大会」の日に事業所が主催する「夏祭り」を開催している。利用者・家族・地域住民が集まって花火を観賞しながら交流している。また近隣の保育園とも定期的に交流している。
- ・職員は、意見が言い易い環境で、職員同士話し合いながら問題を解決している。

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念や経営姿勢などを掲示し、いつでも閲覧出来るようにしており、毎日朝礼後に復唱する事で日々の中で意識して業務に取り組むようにしている。	法人理念の下に、事業所理念「明るく、楽しく、健やかに、いつも笑顔が絶えない生活を目指します」がある。事業所理念の下に、年間目標を設定し、年度末に実施状況を評価している。毎朝、朝礼時に法人理念・年間目標を唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	福祉施設の行事や町内清掃の参加、保育園児との交流や利用者が運営推進会議に参加するなど、地域とのつながりが保てるように取り組んでいる。	町内会に加入し、町内清掃活動に協力している。事業所主催の「夏まつり」は、利用者家族・近隣住民も参加し交流している。年1回、近隣保育園から園児が来所し、利用者と一緒に「コマ回し」「ケン玉」を楽しんでいる。中学生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験で認知症や施設について説明を行ない、理解が深まるよう努めている。また、小学生の「こども110番」でスタンプラリーの時には安心して利用して頂ける様対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、入居状況や行事報告、夜間想定避難訓練の実施を行っている。各委員で情報交換を行い、テーマとして取り入れ、意見が会議に反映されるように活かしている。	運営推進会議には、利用者が参加し定期的に開催され、毎回テーマを決めて意見交換をしている。年1回、家族会と運営推進会議が合同で開催され、ホテルの食事後、意見交換をしている。また、防災訓練と一緒に開催することもあり、その際には運営推進会議出席者も実際に訓練に参加している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より地域包括支援センターと入居状況や待機者の情報の共有を図り、協力関係を深められる様努めている。	運営推進会議に地域包括支援センターが参加し、その際に意見交換している。年に数回、地域包括支援センター主催の「地域連携会議」に出席し、情報収集と意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は、安全面から外出する時には内側から開錠している。また、入居者からの希望時には可能な限り付き添いを行っている。居室内に関しては状況に応じてフットコール、サイドコール、ベット柵を使用する際は家族の同意を得ている。</p> <p>外部の研修の参加や施設内勉強会実施し意識向上を図っている。</p>	<p>年2回、全職員が参加する身体拘束研修会を行っている。3か月に1回の「身体拘束委員会会議」で、事故防止の為に使用している「センサーマット」について協議した。身体拘束・虐待に関する法人内勉強会で報告された案件を事業所で紹介し、身体拘束防止に役立てている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に関する外部研修に参加したり、施設内でも委員会を作り委員会中心に勉強会を実施している。毎月、フロア会議で入居者の対応を話し合う機会を設けている。</p> <p>皮下出血や外傷発見時には報告書を提出しそれに基づいてカンファレンスを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要の方には、家族に制度の活用について情報を提供している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居時には、本人と家族へ口頭と書類で説明を行ない、同意を得ている。また、改定時にもその都度説明を行ない、書面で同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、匿名で意見が出せるようにしている。また、カンファレンス時にも家族の意見が出せる場を設けている。苦情発生時には報告書を作成し、早急に対応し解決できるように取り組んでいる。法人で運営するフリーダイアルの相談窓口があり、意見等あれば連携し対応出来るようにしている。</p>	<p>年3回、敬老会・食事会・年度末会として家族会を開催し、家族の意見を聞いている。また、ケアカンファレンスや面会で来所された際にも意見を聞いている。「意見箱」も設置しているが、意見はない。</p>	<p>年3回の家族会、カンファレンスなど家族の意見を聞く機会が多いが、家族からの要望や苦情は出ていない。今後は、「施設サービスに関するアンケート」や「提供している食事の試食」など家族が意見を出しやすい工夫をして、要望の把握に努めることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議やフロアー会議、係の会議などを開き、会議を通して各職員の意見を聞き、反映できる場を設けている。また業務内でも意見があれば、検討し利用者の対応を改善を図っている。	毎月の職員会議、年2回の全職員対象の個別面談で職員の意見を聞いている。職員の意見により、職員が動き易い「仕事の流れ」を検討し実施し、「業務日誌」の様式を変更した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回管理者による人事考課の機会を設けている。人事評価の適正や法人内での異動の希望を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力や希望に合った研修が受けられるよう機会を作っている。そこで得た知識を広める場として、月一度の勉強会を行い他職員とも情報の共有が出来る様にしている。また研修で得た知識をもとに業務内容の改善も図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着施設の合同会議の開催、法人内の他施設行事の参加、人事異動による情報交換等で施設内で活かせるものは取り入れている。外部研修や法人の親睦会では職員同士が交流できる場を設けている。		0
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	これまで本人が生活してきた状況を詳しく聞き職員に要望や不安な事が話せるよう努めている。またいつでも話ができるよう耳を傾けている。		

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時にここでの生活を詳しく説明し家族の要望や不安に思っている事が言える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態をしっかりと観察し今必要としている支援を見極めサービス計画書を作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が暮らす上で話を密に行い本人を尊重し関係に努めている。本人の得意な事を見極め共に聞きあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族がこれまで築いてきた事を大切に家族と共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族に協力して頂き外出や外泊で馴染みの場所に訪問をお願いしている。またホームのドライブなどで対応している。	今まで利用していた美容院や墓参りは、家族の協力のもとに出かけている。帰宅願望が強い利用者を自宅近くまで案内して気持ちを落ち着かせることもある。職員が手伝って年賀状を作成し家族に送付している。	

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操やレクリエーションなどで入居者同士が関わりがもてるよう支援している。職員が間に入りコミュニケーションができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所してもこれまでの関係を大切にしたいいつでも相談やフォローができるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の暮らし方の希望や意向は常に話を行ない本人の希望のそえられるよう努めている。	日常生活の会話から利用者の思いを把握したら、ケアプラン計画作成者に報告し、アセスメントとして記録される。思いを伝えられない利用者は家族の協力を得て、把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の会話の中から生活歴を聞きだし把握に努めている。家族からもサービス利用の経過を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活の中で心身の現状の把握に努めている。またフロア会議で職員同士で情報交換を行い一日の過ごし方の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスは出来るだけ多くの職員が参加できる時間帯に行い、一人一人の意見を大切に、ケアへ反映できるようにしている。また、家族からの要望を取り入れた介護計画を作成するように心がけている。毎月月初めにケース担当者がプランに対してモニタリングを行っている。</p>	<p>利用者毎に担当者を決め、「ケース担当者」として仕事をしている。ケアプランの短期目標の実施状況は毎日チェックされ、ケース担当者が月末に集計している。ケアマネージャーとケース担当者はケアプランのモニタリングをし、家族が出席する担当者会議ではケアプランを見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録は誰が見てもその状況が分かるように、分かりやすい言葉で記録するようにしている。また、ケース記録や伝達ノート、職員の報告・連絡を行う事で情報を共有し、入居者のケアの見直し、改善に活かすよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉法人が母体であり、法人の持つ多種に渡る事業、運営施設との協力関係をうけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の公民館での活動に参加したり、町内会のお祭り、清掃活動に入居者と共に積極的に参加している。また、地域包括支援センターが主催の催しにも参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各種の協力病院があり、希望の病院や必要な治療が受けれる様日頃から連携をとり、支援している。また、必要に応じては往診や入院の受け入れ体制を整えている。</p>	<p>利用者・家族の要望でかかりつけ医を決めている。協力医をかかりつけ医とする利用者が多く、かかりつけ医は、往診したり診療所での診療で利用者の健康状況を把握し健康管理を行っている。週1回、看護師が来所し利用者の健康相談に応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、かかりつけ医の訪問看護師に定期訪問して頂いており、その際、看護師より助言や指導を受けている。利用者に体調の変化があった場合は、訪問看護師から、かかりつけ医に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と連携をとり、状態確認や退院後の支援方針について話し合いを設けるようにしている。日頃より、かかりつけ医と連携をとり、関係作りを行っており、家族の希望があれば、かかりつけ医と家族が直接、話を出来るように体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期について、書面にて確認を受け共有している。また、状況の変化が見られる場合は、家族と連絡し合い、状況を説明し、家族と今後のケアや方向性について話し合っている。	入居時に「重度化した際の指針」を説明している。医師が医学的知見に基づいて、事業所での継続的な利用が困難と判断した場合には、医師と家族が今後の方針について協議する。家族の要望で他の施設・医療機関に移動する利用者が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時や緊急時対応のマニュアルを作成し、事務所内の目につく所に掲示している。また、定期的実践を取り入れた訓練の実施、緊急時に置ける対応の勉強会、指導などを実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、日中、夜間を想定した防災訓練を行っている。夜間想定時、消防署、地域住民を交えて合同の消防訓練を行ったり、運営推進会議にて、地域の人々の協力を得られる様、働き掛けている。災害時の避難方法、避難経路の訓練も行っている。	年2回、日中・夜間を想定した防災訓練を行い、利用者も参加して避難経路と消火器の使用方法を確認している。年1回、運営推進会議で訓練を行い、出席者も参加している。訓練後の反省会では、利用者が居室に残っていないかを確認し「確認終了」の表示が必要との提案があった。	

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理解しやすい言葉、行動で対応するよう心掛けている。本人の思いを受容し、否定しないような返答をする様努めている。また、入浴時、トイレ時、居室訪問時等、プライバシーに配慮した対応を行っている。	「人格の尊重」については新入社員研修で行い、年1回、職員勉強会で研修している。過剰な手伝いをせず、利用者の行動を見守り、自分で出来ることを実施できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解しやすい言葉かけをするよう心掛けている。ゆとりを持って利用者に接し、利用者の思いや希望を聞きながら、ケアを行なっている。自己決定が困難な方には選択肢を広げ決めてもらう様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の状態や希望に沿い、ゆったりとして生活空間の中で、食事、入浴、日常生活全般を支援するように心がけている。レクや行事の声掛けはしつつも、強制する事なく、本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に服を選んだり、外出時はおしゃれ着を選んだり、その場に応じた服装の選択をしている。理美容は、契約時に出張サービスを利用するか聞き、行っている。月に1度理美容師に来てもらい、本人や家族の希望に沿った利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居時、食事嗜好調査(アンケート)を行い、利用者の好き嫌い、アレルギーの有無等を把握している。食事の準備、片付けは本人の能力の応じ、当番を設けている。その人に合った役割、できる事を提供している。	食器洗い・食器拭き・テーブル拭きなどを利用者と一緒にしている。年に2~3回、外出に出かけることがある。菜園で収穫したサツマイモを焼き芋として楽しむことがある。月に1回、利用者と一緒におやつを作る「おやつクラブ」を行い、たこ焼きやホットケーキを作っている。	

自己評価	外部評価	項目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者1人1人に合わせた食事の量や形態で提供している。脱水にならない様に、こまめな水分摂取の声掛けを行っている。入居時と月に1回体重測定を実施し、体重変化に注意し、食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の汚れ、臭いが発生しない様に毎食後、起床時に口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが不十分な方は、仕上げ磨き等で介助している。歯科往診を行い、口腔内の清潔を保持している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1人1人に合わせた排泄対応を行い、本人の自尊心を傷つけない様に支援している。排泄パターン、行動を確認し、臨機応変に対応を変えている。夜間は、その人に合わせた排泄間隔でトイレ誘導を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間は、ポータブルトイレを使用せず、出来るだけトイレ誘導を行っている。利用者は、布パンツとパット、リハビリパンツを着用しているが、紙おむつ使用者はいない。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1人1人に合わせた下剤コントロールを考え、排便困難にならない様に支援している。便の形状、量の観察も行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>1人1人の希望や体調に合わせて入浴出来るように支援している。入浴を楽しめる様に自尊心に気を付け、難しい所は介助している。入浴中は事故がない様に見守りを徹底している。</p>	<p>週2~3回、午後に入浴している。入浴拒否の利用者には、行動パターンを把握して利用者の気分が落ち着いた時に声掛けをして入浴するよう誘導している。利用者の要望により、同性の入浴介護を実施している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	1人1人の生活習慣を考慮し、安 心して睡眠、休息できる様に支 援している。希望があれば本人の 使い慣れた布団や小物等を使用 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	服薬している薬の用法、用量、 副作用を理解して服薬ミスの無 い様に1人1人に合せた服薬方 法で服薬を行っている。職員は 1人1人の症状を理解し、症状 に変化がないか細かく観察して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の中で、役割を提供する事 で、やりがい、生きがいのある 生活出来る様に支援している。 本人の生活歴を考慮し、一人一 人、楽しみを持って生活出来る 様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	本人の希望や体調を考慮し、屋 外に出て気分転換出来る様に支 援している。地域の人も参加で きる行事を開催し地域交流をは かっている。	天気が良い日には、事業所の周 りを歩いている。年2~3回の外 食行事、花見、平和公園に「お りづる献上」に行くなどの外出 行事を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人一 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	職員は本人がお金を持つ事の 大切さを理解し、1人1人の希 望、管理能力に応じて所持、使 用出来る様に支援している。外 出行事の際にお金を使う楽し みを味わう為、買い物の時間 を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目(西フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じて電話や手紙を送れる様に環境作りを行っている。本人の希望に応じて依頼を承る事もある。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者同士で楽しく過ごして頂ける様に共用空間にはテレビやソファを置きコミュニケーションの取れる様に工夫している。壁画等を貼り季節感を大事にしている。	毎月、利用者と一緒に作成した「季節の壁飾り」を掲示し、利用者の習字作品も掲示している。「トイレ」「風呂場」「洗面台」への目印として、「歩幅に合わせた白いテープ」を床に張り、利用者が転倒しないで歩きやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中でも独りになったり、仲の良い利用者同士で楽しく過ごせるような居場所づくりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1人1人の個性や生活歴、趣味に合わせて居室には使い慣れた家具等を配置し、本人が安心して過ごせる様工夫している。その中で事故も起きないような配置を工夫している。	今まで使用していた家具を持ち込んで利用者の気分が落ち着くように配慮している。趣味の「編み物」道具を持ち込んだり「囲碁」「ハーモニカ」を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は利用者が部屋やトイレなどが分かり易い様に工夫し、本人が自立して生活を送れる為に能力を最大限に活かせるように支援している。		

V アウトカム項目(西フロア) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	③たまに
			④ほとんどない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	③あまり増えていない
			④全くいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
71	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
73	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念や経営姿勢などを掲示し、いつでも閲覧できるようにしており、日々意識して業務に取り組むようにしている。又、朝礼時、復唱し業務に入っており、毎年、理念の見直し等も行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	福祉施設の行事、町内清掃や町内集会、体操教室の参加、保育園児との交流や利用者が運営推進会議に参加する等、地域とのつながりが保てるように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験の受け入れ、認知症や施設について説明を行い、理解が深まるよう努めている。又、小学生の「こども110番」でスタンプラリーの時には安心して利用して頂けるよう対応している。運営推進会議にて地域住民等に向けて、介護支援、その他等の勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、入居状況や行事報告、避難訓練の実施を行っている。各委員で情報交換を行い、テーマとして取り入れ、意見が会議に反映されるように活かしている。又、緊急時等での協力依頼や情報共有に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に入居状況等を報告している。日頃より地域包括支援センターと入居状況や待機者の情報の共有を図り、協力関係が深められるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は安全面から内側から施錠しているが、入居者からの希望時には可能な限り、開錠し付き添いを行っている。居室内は状況に応じてフットコール、ベットの柵等使用する際は家族の同意を得ている。外部の研修の参加や施設内勉強会を実施し、意識向上を図っている。3カ月に1回、身体拘束委員会会議を開催し、施設内の問題等に対して協議している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に関する外部研修への参加、施設内で委員会を中心に勉強会の実施や問題解決に取り組んでいる。毎月、フロア一会議で入居者の対応等を話合う機会を設けている。皮下出血や外傷発見時には報告書を提出し、それに基づいてカンファレンスを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要の方には、家族に制度の活用について情報を提供している。又、勉強会等で職員で制度について学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居時には、本人と家族へ口頭での説明と書類で説明を行い同意を得ている。又、改定時にもその都度口頭で説明を行い、書面で同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、匿名で意見が出せるようにしている。又、カンファレンス時、家族の意見や要望を確認する場を設けている。苦情発生時は報告書を作成し、早急に対応、解決できるよう取り組んでいる。法人で運営するフリーダイアルの相談窓口があり、意見等あれば連携し対応できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議やフロアー会議、係の会議等を開き、会議を通して各職員の意見を聞き、反映できる場を設けている。又、年2回管理者による職員の個別面談を行い、意見や提案等を聞いている。業務内でも意見等あれば、その都度検討し利用者の対応や業務改善等を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回管理者による人事考課の機会を設け、職員個々の意見や勤務状況の把握に努めている。人事評価の適正や法人内での異動希望を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力や希望に合った研修が受けられるよう機会を作っている。そこで得た知識を広める場として、勉強会にて他職員と情報共有できるようにしている。又、研修内容を活かし業務内容の改善も図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の地域密着施設の合同会議の開催や行事への参加、人事異動による情報交換等で施設内で活かせるものは取り入れている。法人内研修の実施や法人の親睦会では職員同士が交流できる場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接を行い、本人の要望や生活状況等を把握し、不安事等に対してしっかりと話を傾聴し、安心して過ごせるよう努めている。又、他入居者との関係性にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用に関して、不安や質問等あれば随時説明等を行い、理解を得てから利用してもらえるように努めている。又、要望が言いやすいよう、日頃から会話等を通して、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報提供や面接時の情報をもとに、必要とされる支援を検討し、利用開始時からそれを提供出来るようにしている。カンファレンスで本人・家族の意向等の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活についての本人の意向、尊厳を尊重しながら施設生活を作り、又、なげない言動から、本人の得意なことやできること等を見つけ、その能力を活かせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族との距離感・関係性を大切にしながら支援できる関係を作っている。家族や本人の意向に沿うよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力のもと、馴染みのある場所への外出や外泊を行っている。又、日常会話でも出身地の話をする等、関係継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事やテレビを観る等、関係に配慮しながら個々が楽しめるように支援している。レクリエーション等では、利用者同士の関わりが持てるように行ったり、職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後もこれまでの関係を大切に、いつでも相談やフォローができるよう、施設内で情報の共有に努め、対応ができるようにしている。又、退所先等への情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の暮らし方の希望や意向は常に話を行い、可能な限り本人の希望に添えられるよう努めている。自身の希望が上手く言葉にできない方は、日々の言動等を考慮し、想いが出せるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族との会話の中から生活歴を把握し、生活に活かせるよう家族と共に支援している。家族からも随時サービス利用の経過等を聞き、細かく反映できるように努めている。又、必要に応じて情報提供を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの日常生活を考慮しながら、施設でも近い生活が送れるよう支援している。日々の様子を記録し、心身の現状の把握に努め、職員全体で把握、対応できるようにしている。定期的に施設内カンファレンスや会議等で現状の把握や対応について協議している。		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスはできるだけ多くの職員が参加できる時間帯で行い、多角的な意見を出し合い、ケアへ反映できるようにしている。又、家族や本人の要望に添った介護計画を作成するように心がけている。毎月、各ケース担当者がプランに対してモニタリングを行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録は誰が見てもその状況が分かりやすい言葉を使い、記録するよう心がけている。又、ケース記録以外に、伝達ノートの活用や職員間での報告・連絡を徹底することで情報を共有し、入居者のケアの見直し、迅速な対応・改善ができるよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の意向に沿ったサービスの提供が出来るよう、事業所間での情報共有も密に行い、一事業だけで考えないように取り組んでいる。必要に応じて他施設への入所等の提案や引き継ぎ支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の公民館の活動や、町内会等のお祭り、清掃活動など、地域との繋がりが持てるよう、入居者と共に参加している。又、地域包括支援センターが主催の催しにも参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各種の協力病院があり、家族や本人の希望される病院や必要な治療が受けられるよう、日頃から連携をとり対応できるようにしている。又、必要に応じて往診や希望される病院への入院の受け入れ体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回、かかりつけ医の訪問看護師が定期訪問して頂き、利用者の現状を報告、相談し、看護師より助言や指導を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には家族と連携を取り合い、状態確認や退院後の支援方針について話し合いを設けている。退院時には情報提供してもらい、退院後適切な支援のもと安心して生活が送れるよう努めている。かかりつけ医には常に連携をとれるよう報告等行いながら、関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化や終末期についての対応等は口頭及び書面にて確認し、施設内で共有している。又、家族には状況に対し、施設内でできることを説明し、今後の方針を話し合っており、毎年、重度化や終末期についての意向を確認している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時や緊急時対応のマニュアルを作成し、事務所内の目につく所に掲示している。又、定期的に事故や急変時を想定した訓練の実施や勉強会では夜間想定等も行っている。必要に応じて勉強会にて外部講師による介護技術指導等を実施したり、外部研修の参加にて知識向上に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、日中・夜間を想定した防災訓練を消防署、地域住民を交えて合同の消防訓練を行ったり、避難経路を実際に体験している。又、地域活動時や運営推進会議にて、地域住民の協力が得られるよう働き掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	わかりやすい言葉、個々に合った支援方法で対応するよう心掛けている。本人の思いを受容し、否定的な返答や必要以上の支援をしないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解しやすい言葉かけを行い、それぞれの思いを聞くようにしている。自己決定が困難な方でも、可能な限り本人に決められるよう、選択肢を増やし対応している。又、その方の言動等で判断し、本人の思い等を代弁している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の状態や希望に沿い、落ち着いた生活空間の中で、可能な限り1人1人のペースに合わせた食事、入浴等の日常生活全般を支援するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に服を選んだり、外出時はお気に入りの服を着る等、その時々に応じた服装の選択を支援している。理美容は契約時に出張サービス利用の有無を確認し行っている。月1回、理美容師に来てもらい、本人や家族の希望に沿った利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付けは個々の能力に応じた役割を設けている。できることはしてもらい、職員と一緒にしている。又、入居者の作った野菜を収穫し、食事に出すことで楽しみや喜びを感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者個々に合わせた食事量や水分量を提供している。体重やその他、健康状態等、状態に応じて食事量や水分量の調整をしている。水筒の活用で自由に水分摂取できるよう工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の汚れ、臭いを防ぐために毎食後と起床時に個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。月1～2回、歯科往診にて、口腔内の清潔を保持している。又、専門医からの口腔ケア等の指導や助言を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々に合せた排泄対応を行い、本人の自尊心を傷つけないよう注意し支援している。排泄の間隔や行動を確認し、臨機応変に対応を見直し、変更している。その際、職員間で情報共有を図り、統一した対応ができるようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々に合せた下剤コントロールを考え、排便困難にならないように水分の提供を増やす等の支援している。排便の際は、便の形状や量の観察も行っており、異常がある場合はかかりつけ医に報告・相談、下剤調整等している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>業務の都合上、日中のみの入浴となるが、個々の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。入浴を楽しめるように自尊心に気を付けている。自身でできることはしてもらい、難しい所は介助している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>個々の生活習慣を考慮し、安心 できる睡眠、休息できるように 支援している。希望があれば本 人の使い慣れた布団や毛布を 使用している。不眠が続く際 は、日中の活動量を増やしたり 、かかりつけ医に報告・相談 している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬している薬の用法、用量、 副作用を理解して服薬ミスの 無いように、個々の状態に合 せた服薬方法で服薬を介助し ている。薬の変更や追加等あ れば、職員間で情報共有して いる。追加で処方された薬で 状態等に变化等見られた場合 はかかりつけ医に報告・相談 している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。</p>	<p>日々の生活の中で、役割を提供 することで、やりがいや生きが い、楽しみのある生活ができる ように支援している。本人の 生活歴を考慮し、嗜好品の提 供や趣味活動等、楽しみを持 って生活できるように支援して いる。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。</p>	<p>本人の希望や体調を考慮し、 屋外に出て気分転換が行える ように支援している。地域の 人も参加できる行事の開催 や地域行事への参加等、地 域交流を図れるよう支援して いる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>職員が本人がお金を持つ事の 大切さを理解し、個々の希望 、状態に応じて所持、使用で きるように支援している。外 出行事の際にお金を使う楽し みを感じてもらふ為、買い物 の時間を設け嗜好品等を購 入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東フロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に応じて電話を取り次いだり、こちらから掛けてやり取りをしている。携帯電話の所持も可能としており、自由に家族等へ連絡してもらっている。年末には家族宛に年賀状を送付している。</p>	/	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間にはテレビやソファを置きコミュニケーションの取れるようにし、入居者が製作したその季節に合った壁画等を貼り、季節感を感じれるようにしている。混乱なくトイレの場所や次の行動が分かるよう、ボードを貼る等工夫している。又、季節、その日の気候に応じた室温を保つよう空調管理している。</p>	/	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間には大きなテーブルを挟んで会話をしたり、離れた場所にソファを設置し、集団から離れ独りになったり、仲の良い利用者同士で会話をしたりと、一人一人が楽しく、穏やかに思い思いの時間を過ごせるような居場所づくりの工夫している。</p>	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個々の個性や生活歴、趣味に合わせて余暇時間に製作した作品や家族の写真等を飾り、本人が安心して過ごせるような居住空間作りの工夫している。</p>	/	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内は手すり等を設置し安全かつ使いやすくし、能力を最大限に活かして自立した生活が送れるような工夫をしている。又、転倒等の危険がないよう配慮し、環境整備を行っている。</p>	/	

V アウトカム項目(東フロア) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	③たまに
			④ほとんどない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	③あまり増えていない
			④全くいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
71	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
73	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 令和元年10月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族から入居者の要望を十分に把握しきれていない。	本人・家族に現状を伝え率直な意見を基にサービス提供する。	家族カンファ、面会時等細目に様子を伝えサービス計画に活かしていく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。